



市埋蔵文化財センター

☎ 23-8020

29

ドキドキ たいむとらべらー

上里遺跡の悲劇

上里遺跡は、二戸駅の南西約300mに位置する遺跡です。

昭和54年(1979年)の二戸バイパス工事に伴う発掘調査で、縄文時代前期から中期にかけての大きな村の跡が見つかりました。この縄文時代の村は、大型住居と住居の周りを取り囲むフラスコピットと呼ばれる穴でつくられていました。

そのフラスコピットの一つから、7体の縄文人の人骨が発見されました。



フラスコピットから発見された人骨

この人骨は、それぞれの頭部が別々の方向に放射状

に並べてあったことや、土をかぶせられた形跡があったことから、一度に埋葬された人々と考えられています。

縄文時代前期の人骨が一度に、このような形で発見されるのはとても珍しいことです。国立奈良文化財研究所によって地面ごと切り取られ、発掘現場から運ばれたうえで、岩手医大や東京大学によって解剖学的な調査が行われました。その結果によると、人骨は37歳前後の男性一体、30歳位と25歳位の女性が各一体、16歳くらいの青年一体と9〜5歳の小児3体の計7体でした。これらの人々は一つの家族であり、最年長の男性と30歳の女性が夫婦、25歳の女性は男性の妹、青年と小児は夫婦の子供たちと推定されています。

残念ながら、この家族に何があったのかを知る由もありませんが、フラスコピットが掘られたのは、木の実がなる秋であることは明らかです。外傷や病変の所見が無いことから、食中毒による死亡ではないかと考えられます。その原因として最も可能性が高いのは、キノコによる食中毒ではないでしょうか。現代の人々でも、キノコにより中毒死する事例は跡を絶ちません。

秋の実りを喜ぶ家族の団らんが、一転してしまった、そんな悲劇が上里遺跡にはあったのです。

(注) 冬に備えて食料を貯蔵する穴。三角フラスコに形が似ていることからついた名称

こみゅにTeaたいむ

39杯目

健やか爽やかウォーク日本1800 歩いてニッポンを元気に
二戸国の名勝男神岩・女神岩ウォーク

(社)日本ウォーキング協会および(財)健康体力づくり事業財団では、「健やか爽やかウォーク日本1800歩いてニッポンを元気に」と称して、全国の約1800市町村において「歩く国民運動」を実施します。市は「二戸国の名勝男神岩・女神岩ウォーク」と称してウォーキング大会を行ないます。健康づくり・体力づくりのために皆様のご参加をお待ちしております。

開催日 9月20日(月) ※雨天決行

受付時間および場所 午前9時20分までに市総合スポーツセンター前駐車場で受け付けください。

参加料 300円(中学生以下は無料)

コース 13kmコース(約3時間) ｽｽﾞｰﾍﾞﾝﾀｰ～奥山地区～馬仙峽男神岩展望台～上里地区～深山神社～馬仙峽公園～馬仙大橋～荒瀬地区～二戸駅西口
5kmコース ｽｽﾞｰﾍﾞﾝﾀｰ～枋ノ木神社～川原橋～呑香稲荷神社前～九戸城跡～岩谷観音堂～二戸大橋～ｽｽﾞｰﾍﾞﾝﾀｰ(約1時間30分)

申込期限 9月15日(水)

その他 飲み物などは各自ご用意ください。駐車場はｽｽﾞｰﾍﾞﾝﾀｰ裏、J A新岩手二戸中央支所および国、

県合同庁舎駐車場をご利用ください。
申込先 地域づくり推進課(内線654)

フクロウの情報をお寄せください

楽しく美しいまちづくり協議会(佐藤悦郎会長)は昨年5月より、市内の自然、歴史、文化などの宝を統合的に調査しております。

自然においては、これまで野鳥のチゴハヤブサ、サンバイヌワシなどを始め、キクガシラコモリの繁殖、淡水エビのヌマエビ、スジエビの繁殖池の確認など行っております。

本年は特に社寺林の「ムササビ」通称バンドリの生息調査を行ない8カ所ほどで繁殖樹洞が確認できました。大木の樹洞を使う動物として他に「フクロウ」もいますがこれまで全く確認できていない状況です。里山のシンボルで守り神であるフクロウの情報をお持ちの人はぜひお知らせください。



フクロウの幼鳥(5月ごろ)

「地域の宝」として保全保護を計りたいものです。樹洞で繁殖するコノハズク、オオコノハズク、オシドリ、モモンガなどの情報も併せてお知らせください。



近年急減しているヨタカ

この欄の問い合わせは、市地域づくり推進課(内線654)まで